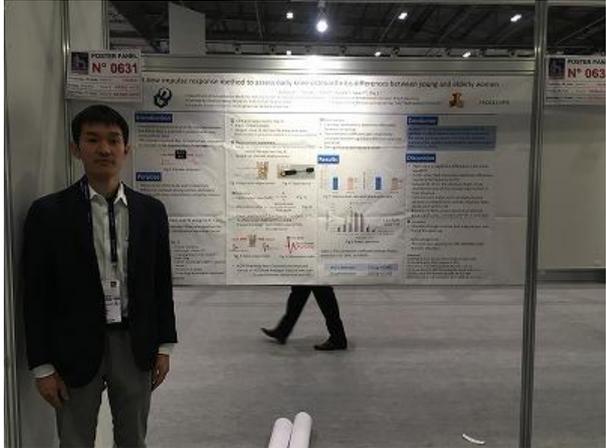


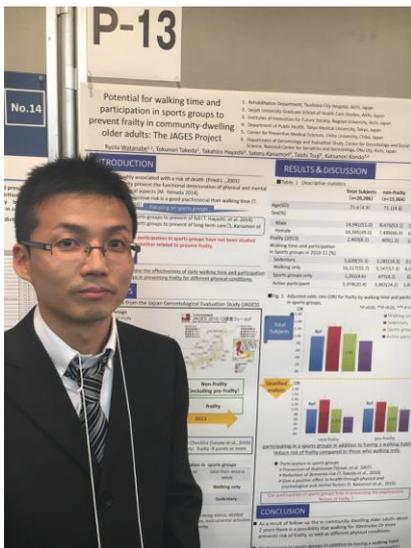
星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2016.11.19
氏名	相本啓太
指導教員名	太田進
掲載内容（ <input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他）	※いずれかにチェック
学会等開催日：	2016 年 6 月 8 日 ～ 2016 年 6 月 11 日
学会等名称：	European League Against Rheumatism (Eular)
学会等開催場所：	London, England
研究・講演タイトル：	A new impulse response method to assess early knee osteoarthritis differences between young and elderly women
発表者名（全員記載）：	Aimoto K, Itoh Y, Hase K, Sakai T, Kondo I, Ota S
研究概要 （150 字程度）	変形性膝関節症の早期診断のための予備的検討として、膝関節に対するインパルス応答法を実施した。変形性膝関節症基準に当てはまる地域高齢者では、健康若年者と比較して 20-30Hz において、パワースペクトルが大きい結果となった。変形性膝関節症者では関節軟骨等が変性し、衝撃吸収をしにくくなったことによる影響が考えられた。
感想その他 アピール欄 （100 字程度）	ロンドンで開催された Eular に参加しました。リウマチを中心とした学会です。複数の方とディスカッションを行うことができ刺激になりました。非常に有意義な学会参加でした。
写真添付欄 2 枚以内	 

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2016.11.19
氏名	相本啓太
指導教員名	太田進
掲載内容（ <input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他）	※いずれかにチェック
学会等開催日：	2016 年 5 月 27 日 ～ 2016 年 5 月 29 日
学会等名称：	第 51 回日本理学療法学会大会
学会等開催場所：	札幌市
<small>国名，都市名，会場名</small>	
研究・講演タイトル：	インパルス応答法を用いた膝関節振動計測方法の検討
発表者名（全員記載）：	相本啓太，太田進，近藤和泉
研究概要 (150 字程度)	変形性膝関節症の早期診断のための予備的検討として、膝関節に対するインパルス応答法の信頼性検討を実施した。出力部位は膝関節裂隙遠位 5、10、15cm において検討し、15cm 部位で級内相関係数が 0.9 以上と高い信頼性を示した。入力部位は、実施した膝関節内側顆と内側上顆とともに級内相関係数が 0.9 以上と高い信頼性であった。
感想その他 アピール欄 (100 字程度)	札幌で開催された第 51 回日本理学療法学会大会に参加しました。発表したセッションの座長から、「非常におもしろいアイデアで、今後に期待できる」と感想をいただきました。
写真添付欄 2 枚以内	写真はありません。

星城大学大学院健康支援学研究所 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2016年11月5日
氏名	渡邊良太 指導教員名 竹田徳則先生
掲載内容	( <input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他 ) ※いずれかにチェック
学会等開催日	2016年11月4日～2016年11月5日
学会等名称	2nd Asian Conference for Frailty and Sarcopenia Asian Aging Forum.
学会等開催場所	日本, 愛知県, 今池ガスビル 国名, 都市名, 会場名
研究・講演タイトル	Potential for walking time and participation in sports groups to prevent frailty in community-dwelling older adults: The JAGES Project
発表者名 (全員記載)	<u>Ryota Watanabe</u> , Tokunori Takeda, Takahiro Hayashi, Satoru Kanamori, Taishi Tsuji, Katsunori Kondo.
研究概要 (150字程度)	フレイル発生予防につながる歩行時間とスポーツグループ参加による影響を明らかにすることを目的として、地域在住高齢者29,286名に2時点で自記式郵送調査を実施した。歩行習慣のある者においてもスポーツグループに参加することでフレイル発生リスクを低減できる可能性が示唆された。フレイル発生予防には単純に身体活動量を増加するだけでなく、他者との関わりが重要かもしれない。
感想その他 アピール欄 (100字程度)	日本開催ではありましたが初めての国際学会に参加しました。抄録やポスター作成、すべて英語でしたので大変でした。研究には英語は必須と考えますので勉強する良い機会となりました。
写真添付欄 2枚以内	

星城大学大学院健康支援学研究所 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2016年10月30日		
氏名	則竹賢人	指導教員名	山田和政
掲載内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他         ※いずれかにチェック		
学会等開催日	2016年10月22日～2016年10月23日		
学会等名称	第6回日本リハビリテーション栄養研究会学術集会		
学会等開催場所	富山県, 富山国際会議場大手町フォーラム		
研究・講演タイトル	回復期脳卒中者の栄養管理のあり方における検討—安静時代謝量に着目して—		
発表者名（全員記載）	則竹賢人, 山田和政 ※発表者は一番前に記入し, 自分に下線		
研究概要 (150字程度)	回復期脳卒中者の栄養管理において消費エネルギーのうち身体活動量とともに安静時代謝量（REE）の把握は重要であるが, 入院中の推移は明らかではない。本研究では, 回復期脳卒中者16名のREEの変化を明らかにし, 理学療法士の視点から適切な栄養管理のあり方を再考した。		
感想その他 アピール欄 (100字程度)	研究方法について参考となるアドバイスが頂け、有意義な学術集会であった。		
写真添付欄 2枚以内	<div style="text-align: center;">  </div>		
	1枚		

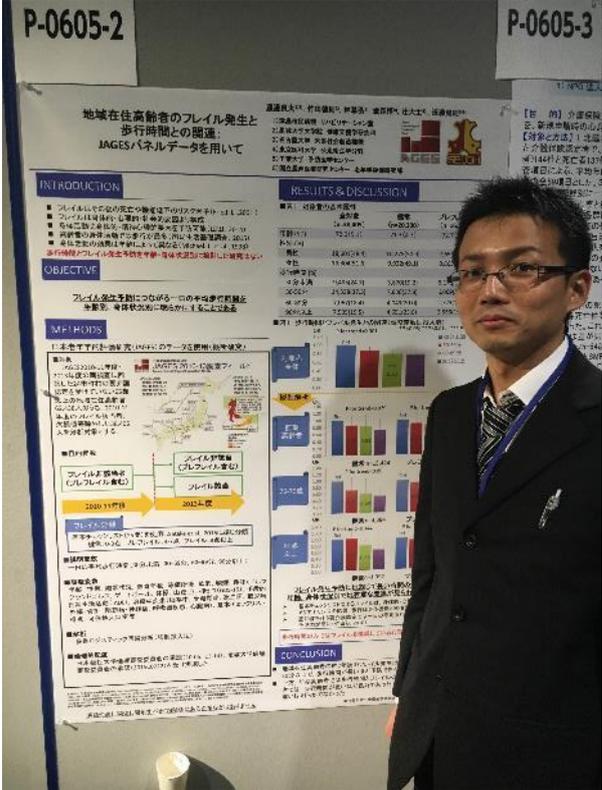
星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2016年10月30日
氏名	伊井公一
指導教員名	山田和政
掲載内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他 <small>※いずれかにチェック</small>
学会等開催日	2016年10月22日～2016年10月23日
学会等名称	第32回東海北陸理学療法学会大会
学会等開催場所	岐阜県，長良川国際会議場
	<small>国名，都市名，会場名</small>
研究・講演タイトル	転倒低リスク高齢者における「起立-歩行課題」からみた転倒予防策の検討
発表者名（全員記載）	伊井公一，鈴木一弘，山中健行，神野佑輔，山田和政
	<small>※発表者は一番前に記入し，自分に下線</small>
研究概要 (150字程度)	転倒低リスク高齢者29名を転倒経験の有無により2群に分類し，「起立-歩行課題」と「歩行課題」における定常歩行に至るまでの歩数の違いから，その原因を調査し，転倒予防策について検討した。
感想その他 アピール欄 (100字程度)	今後，研究を進める上でフロアから多くの質問や貴重な意見を頂くことができた。学会大会長賞を受賞した。
写真添付欄 2枚以内	

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（論文掲載版）

報告日	2016年10月30日
氏名	藤井 稚也
指導教員名	竹田 徳則
掲載内容（ <input checked="" type="checkbox"/> 研究論文採択 <input type="checkbox"/> 総説論文掲載 <input type="checkbox"/> その他紀要など）	
論文採択・掲載日	2016年10月15日
論文掲載雑誌名 巻・号・頁・年	作業療法 35（5）：562－570，2016.
doi	
タイトル	健康増進活動に参加する中高年者の運動の行動変容に関連する心理・社会的要因
発表者名（全員記載）	藤井稚也，竹田徳則
要旨 (250字程度)	本研究は，1年間の健康増進活動に参加した中高年者を対象に，活動期間中と活動終了3ヵ月後の縦断的視点から行動変容ステージ変化と，心理・社会的要因との関連を検討した．その結果，分析対象者18名のうち，活動期間中の行動変容「あり」群は10名，「なし」群は8名であった．行動変容ステージの前進や維持の関連要因として，多重比較の結果より活動前半の運動セルフ・エフィカシーの向上，群間比較より家族や友人からの肯定的なソーシャル・サポートの受領といった心理・社会的側面の影響が考えられた．

星城大学大学院健康支援学研究所 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2016年10月29日		
氏名	渡邊良太	指導教員名	竹田徳則
掲載内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他		
学会等開催日	2016年10月26日～2016年10月28日		
学会等名称	第75回日本公衆衛生学会総会		
学会等開催場所	日本, 大阪府, グランフロント大阪 国名, 都市名, 会場名		
研究・講演タイトル	地域在住高齢者のフレイル発生と歩行時間との関連：JAGES パネルデータを用いて		
発表者名（全員記載）	渡邊良太, 竹田徳則, 林尊弘, 金森悟, 辻大士, 近藤克則		
研究概要 (150字程度)	フレイル発生予防につながる歩行時間を年齢、身体状況別に明らかにすることを目的として、地域在住高齢者 38,405 名に 2 時点で日記式郵送調査を実施した。対象者全体におけるフレイル発生予防につながる歩行時間は一日の平均歩行時間が 30 分以上であった。一方、前期高齢者では歩行時間とフレイル発生とは有意な関連はなく、後期高齢者では長いほど良好であった。		
感想その他 アピール欄 (100字程度)	全国公衆衛生学会に参加しました。この学会は非常に多くの職種が参加する学会です。リハビリ職種は少なめですが、理学療法士の方からも質問を受けました。報告内容をさらに深めて、論文化できるよう進めていきたいです。		
写真添付欄 2枚以内			

星城大学大学院健康支援学研究所 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2016年9月25日
氏名	備前 宏紀
指導教員名	竹田 徳則
掲載内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他         ※いずれかにチェック
学会等開催日	2016年9月23日～2015年9月25日
学会等名称	第6回日本認知症予防学会学術集会
学会等開催場所	宮城県仙台市
国名, 都市名, 会場名	東北大学百周年記念会館川内萩ホール, 東北大学川内北キャンパス
研究・講演タイトル	海馬の萎縮が手段的日常生活活動や認知機能に与える影響
発表者名 (全員記載)	備前宏紀, 竹田徳則, 山名知子, 木村大介
研究概要 (150字程度)	<p>アルツハイマー型認知症早期の特徴である海馬萎縮が手段的日常生活活動 (IADL) や認知機能にどう影響するか検討しました。その結果、海馬萎縮は認知機能にも関与しますが IADL を介し間接的に認知機能にも関与することが示唆されました。IADL の維持は認知機能の維持につながる可能性があり、認知機能低下を防ぐために、IADL に着目し介入することは重要であると考えられました。</p>
感想その他 アピール欄 (100字程度)	<p>認知症予防学会に参加してきました。私の発表に対し、様々な貴重な意見を頂き、今後の研究の参考となりました。色々な講演が企画され、現在の認知症、アルツハイマー型認知症における最新知見を学ぶことができ、意義深い学会参加となりました。</p>
写真添付欄 2枚以内	

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2016年9月25日
氏名	備前 宏紀
指導教員名	竹田 徳則
掲載内容（ <input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他）	※いずれかにチェック
学会等開催日：	2016年9月9日～2015年9月11日
学会等名称：	第50回日本作業療法学会
学会等開催場所：	北海道札幌市
国名，都市名，会場名	ロイトン札幌，ホテルさっぽろ芸文館，札幌市教育文化会館
研究・講演タイトル：	物忘れを主訴に受診した地域在住高齢者における脳萎縮や血流低下が神経心理学検査に及ぼす影響 Effect of the cerebral atrophy and the brain blood flow on the neuropsychological test in the elderly people with forgetfulness
発表者名（全員記載）：	備前宏紀，竹田徳則，山名知子，木村大介
研究概要 （150字程度）	アルツハイマー型認知症初期の特徴である海馬の萎縮や楔前部・後部帯状回・頭頂葉の血流低下が神経心理学検査にどのように影響を及ぼすかを検討することを目的に実施しました。その結果，アルツハイマー型認知症の危険性を早期に捉えるために，特に「日時の見当識」，「葛藤指示」に着目することが重要と示唆されました。
感想その他 アピール欄 （100字程度）	日本作業療法学会に参加してきました。私の発表に対し，様々な貴重な意見を頂き，今後の研究を進める上でとても参考となり，今回の学会発表の経験を活かし，良い研究が行えるよう努力していく所存であります。
写真添付欄 2枚以内	

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2016年9月24日
氏名	窪 優太
指導教員名	竹田 徳則
掲載内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他         ※いずれかにチェック
学会等開催日	2016年9月23日～2016年9月25日
学会等名称	第6回日本認知症予防学会学術集会
学会等開催場所	宮城県仙台市
国名, 都市名, 会場名	東北大学百周年記念会館川内萩ホール, 東北大学川内北キャンパス
研究・講演タイトル	回復期リハビリテーション病棟入院の抑うつ・アパシーを呈する認知症高齢者に対する集団料理活動の持続効果の検討
発表者名 (全員記載)	窪優太, 加藤美樹, 中島大貴, 岡村英俊, 中澤僚一, 長谷川慧, 各務真菜, 竹田徳則
研究概要 (150字程度)	回復期リハ病棟入院の抑うつ・アパシーを呈する認知症高齢者の集団料理活動の持続効果の検討を目的とした。対象を介入群と対照群に分け、介入群には週2回計8回の料理活動を行った。その結果、抑うつ・アパシーには改善の持続は認められず、活動終了後のフォローアップの必要性が示唆された。
感想その他 アピール欄 (100字程度)	もっと対象者数を増やし、詳細な分析をすることで、認知症に関わる方、認知症患者ご本人・ご家族の役に立てるようなデータを提供していきたいです。
写真添付欄 2枚以内	

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2016年6月5日
氏名	石橋雄介
指導教員名	山田和政
掲載内容（ <input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他）	※いずれかにチェック
学会等開催日：	2016年5月27日～2016年5月29日
学会等名称：	第51回日本理学療法学会大会
学会等開催場所：	北海道，札幌コンベンションセンター
国名，都市名，会場名	
研究・講演タイトル：	精神科病棟入院患者に対する理学療法が生活機能・精神機能に及ぼす影響に関する実態調査
発表者名（全員記載）：	石橋雄介，山田和政，林久恵，西田宗幹
	※発表者は一番前に記入し，自分に下線
研究概要 (150字程度)	精神科病棟入院患者の高齢化が進んでおり，身体的リハビリテーションの必要性は高まっているが，当該領域における理学療法（PT）研究は極めて少ない。本研究では，PTの対象となった精神科病棟入院患者126名の現状を明らかにするとともに，PT実施者の生活機能及び精神機能の変化について調査した。
感想その他 アピール欄 (100字程度)	今後の研究に当たって多くの情報を集めることができ，また，発表を通して貴重な意見やアドバイスをフロアおよび座長から頂くことができた。
写真添付欄 2枚以内	

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2016年9月10日
氏名	窪 優太
指導教員名	竹田 徳則
掲載内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他         ※いずれかにチェック
学会等開催日	2016年9月9日～2016年9月11日
学会等名称	第50回日本作業療法学会
学会等開催場所	北海道札幌市
国名, 都市名, 会場名	ロイトン札幌, ホテルさっぽろ芸文館, 札幌市教育文化会館
研究・講演タイトル	認知症の BPSD に対する非薬物療法の現状と課題
発表者名 (全員記載)	窪優太, 竹田徳則
研究概要 (150字程度)	<p>認知症の BPSD (Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia) に対する効果的な非薬物療法を実施するための示唆と課題を明らかにすることを目的とした。方法として国内で実施された非薬物療法の効果に関する国内外での報告を review した。その結果, 刺激に焦点を当てた週 1 回 30 分以上の音楽等を用いた介入によって, 抑うつや妄想観念が改善する傾向が示された。</p>
感想その他 アピール欄 (100字程度)	<p>近年, 認知症の BPSD への対応は重要視されています。今回得られた示唆が, 臨床応用に役立てればうれしく思います。</p>
写真添付欄 2枚以内	

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2016年6月4日		
氏名	窪 優太	指導教員名	竹田 徳則
掲載内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他                    ※いずれかにチェック		
学会等開催日：	2016年6月4日	～	2016年6月5日
学会等名称：	第17回日本認知症ケア学会大会		
学会等開催場所：	兵庫県神戸市		
国名，都市名，会場名	神戸国際展示場		
研究・講演タイトル：	抑うつ・アパシーを呈する認知症高齢者に対する集団料理活動の効果の検討 回復期リハビリテーション病棟における取り組み 第一報		
発表者名（全員記載）：	窪優太，加藤美樹，中島大貴，岡村英俊，中澤僚一，長谷川慧，各務真菜， 竹田徳則		
研究概要 （150字程度）	回復期リハビリテーション病棟入院の抑うつ・アパシーを呈する認知症高齢者に対する，集団料理活動の効果の検討を目的とした．対象を入院時期で介入群と対照群に分け，介入群には週2回計8回の料理活動を行った．その結果，介入群には抑うつ・アパシー・QOLの改善が認められた．		
感想その他 アピール欄 （100字程度）	今回の取り組みは多く聴衆の方に興味をもっていただけた様子でした．回復期リハビリテーション病棟入院患者に対して，精神機能面にも着目した介入を行う必要性を理解していただけるよう，今後も取り組んでいきたいと思っています．		
写真添付欄 2枚以内			